

京都市青少年活動推進協議会 平成20年度第2回専門委員会

- 1 日 時 平成20年8月26日(火) 午後6時30分～8時30分
- 2 場 所 ウィングス京都 会議室1・2
- 3 出席者 佐々木 佳代(同志社女子大学名誉教授)
高谷 泰市((財)京都キリスト教青年会名誉主事)
山本 智也(京都ノートルダム女子大学准教授)
遠藤 保子(立命館大学産業社会学部教授・ユースサービス協会理事長)
多田 裕昭((社)京都青年会議所常任理事)
水野 篤夫((財)京都市ユースサービス協会事業部長)
室矢 直人((財)大学コンソーシアム京都副事務局長)
門田 志乃(青少年委員)
坂部 昌明(青少年委員)
関目六左衛門(市立西京高等学校長(市立高等学校校長会))
丸岡 照幸(市立音羽中学校長(市立中学校校長会))
浪江 隆二(教育委員会京都まなびの街生き方探求館首席指導主事)

4 会議の概要

<議題>京都市ユースアクションプランの推進状況について

(1) 基本方針3「青少年に開かれた地域社会づくり」

3-1 活動の場づくりとその支援

- 推進施策20 世代間・異年齢間の交流の促進
- 21 地域資源を活用した青少年の「集いの場」づくり<重点施策>
- 22 地域社会への参加の促進
- 23 青少年の学習意欲にこたえる学習機会の提供

3-2 人的支援とネットワークづくり

- 推進施策24 指導者・リーダーの育成
- 25 青少年の情報交流の推進<重点施策>
- 26 青少年と地域をつなぐ様々な団体、企業等との連携
- 27 青少年施設と学校の連携強化

(2) 基本方針5「青少年が課題を乗り越えるための支援策の推進」

5-1 青少年の自らの力を伸ばす支援策の推進

- 推進施策33 問題行動を未然に防ぐ積極的な施策の推進
- 34 悩みや課題を持った青少年のための「居場所」づくり
- 35 思春期の心や身体健康づくり
- 36 課題を抱える青少年への包括的な対応
- 37 様々な体験による自ら考える力の育成
- 38 ボランティア活動への参加促進と支援

5-2 社会環境づくりの推進

- 推進施策39 社会全体で青少年を育成する取組の推進<重点施策>
- 40 青少年の育成環境を整備する取組の推進
- 41 問題行動を防止する地域の取組の推進
- 42 家庭や地域における教育力の向上
- 43 地域の特性を踏まえた開かれた学校づくり

5 会議で出された意見（要旨）

- ・改善を前提とする評価でないという意味がないのではないか。
- ・計画期間内だからすべての事業を実施するというのではなく、費用対効果をしっかり見て、整理統合すべきである。そのためには、予算額・決算額の記載が必要である。
- ・実施責任者である市長が判断して継続している事業について、専門委員会で意見が言えるのか難しい。
- ・ユースアクションプランには、事業の対象がまさに青少年であるものから、たまたま青少年にかかわるものまで盛り込まれている。プランに基づき実施する固有の事業から、本来目的が別で、プランがなくても実施する事業まである。それらを全部一律に評価するのではなく、プランに基づく固有事業とそうではないものと、評価の重み付けを変えていく必要があるのではないか。
- ・ユースアクションプランの取組状況としては、どれだけ青少年育成に寄与したかを報告すべきである。プランに基づく固有事業でないものについても、青少年育成に寄与している点を報告してもらい、評価するのはどうか。
- ・専門委員会で全事業を評価するのは無理であり、対象を固有事業等に絞る必要がある。
- ・プラン固有事業とそうでないものを分類したうえでの取組状況報告の様式の統一の問題と、各事業が青少年に寄与する度合いの検証ができるかという問題について、引き続き議論が必要である。
- ・現行プランは、様々な事業が包括的に含まれる形式となっており、次期プランの策定までに、プランのあり方について議論する必要がある。